

## 1 単元名 近世の日本

## 2 単元について

## (1) 生徒の実態

本学級には、36名の生徒が所属している。社会科に興味をもって意欲的に学習する生徒が多い。また、ペアやグループなど小集団での活動を好む生徒が多い。自分なりに考えをまとめて表現する活動についても、ほとんどの生徒は自力で取り組むことができる。このように、社会科の学習を楽しんでいる一方で、資料を読み取ったり、自分の考えを書いたり、説明したりすることが苦手と感じている生徒も多い。さらに、互いに考えを出し合い、問いに対する答えを深めたり、より質の高い考えに到達しようとしたりすることを苦手とする生徒が多い。

## (2) 題材観

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）第2章第2節歴史的分野の内容B（3）「近世の日本」に基づき設定した大きな単元である。近世の日本という「内容のまとめり」となる大きな単元（中項目、以下本単元を「中項目」と述べる）という扱いである。近世という社会の構造について、ヨーロッパのキリスト教世界との出会いにはじまる織豊政権の支配体制、江戸幕府の政策および、百姓一揆に結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応、幕府の財政悪化の背景や「鎖国」体制とその後の外国船の接近と開国、倒幕とその時代に活躍した人物と政策を追いながら考察していくことをねらいとする。

日本における近世は、ヨーロッパやアジア諸国との交流が進み、産業や文化、技術など様々な面で諸外国からの影響を受けた時代である。ヨーロッパと日本の交流に着目し、日本社会にどのような影響を与えたのかを中心に学習する。具体的には、ヨーロッパのキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになったことを取り扱い、日本とヨーロッパ諸国の接触がおこったことや、日本の政治や文化に与えた影響などを考察する。また時代では安土桃山時代に入り、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に日本社会も中世から変化していく。その際、当時のヨーロッパの人々や日本国民の思いを考え、当事者意識を持って学習に取り組ませることで社会参画しようとする態度を養うとともに、ヨーロッパ諸国との交流によって様々な影響を受けながら日本の近世社会の基礎がつけられていったことを理解することができる。

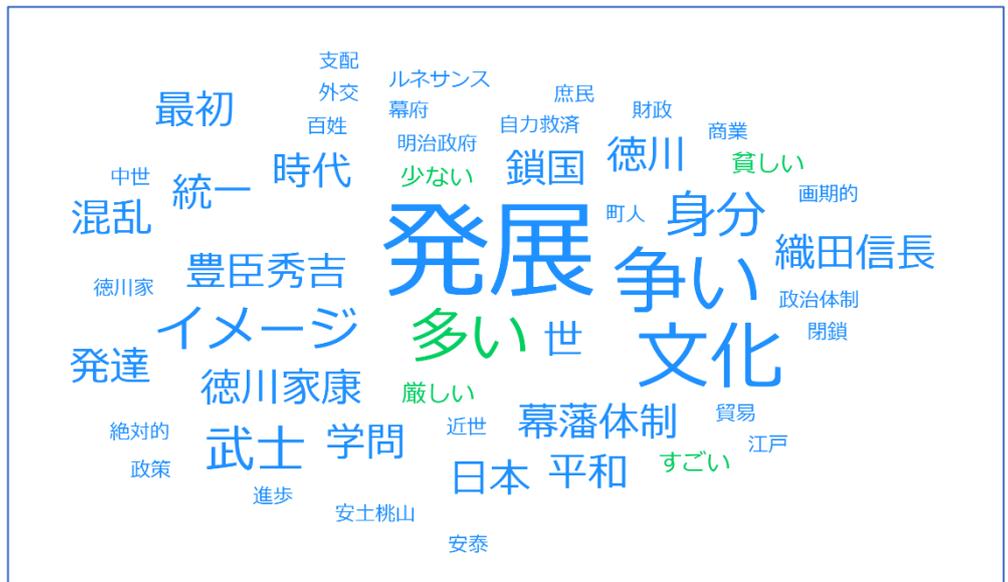
続く江戸時代は、幕府による統治のもと、平和の中で諸産業が発展し、貨幣経済が社会のあらゆる所に浸透した時代である。特に江戸時代前半は米の生産量も増加を続け日本の人口は約2倍になった。また産業や交通の発達により都市が栄え、上方では経済力を持った町人を担い手として元禄文化が生まれる。しかし、元禄期以降、幕府は、明暦の大火や徳川綱吉の放漫財政、鉱脈枯渇による鉱山収入の激減などをきっかけに財政難に陥る。年貢の減収と支出増、農村の人口減と都市の急激な人口増に悩んだ幕府は、8代將軍吉宗の時に幕政の抜本的な改革（享保の改革）を行った。しかし、自然災害や貨幣経済の広がりによる農村の生活の変化により、財政難は続いた。さらに年貢の増徴と統制の強化はかえって社会の反発を招き、一揆や打ちこわしが頻発し、幕府政治は混乱して行く。その中で財政の立て直しのために行われたのが、発展する商工業に財政の基盤を移し、開国して積極的な重商主義的経済政策を推進しようとする田沼意次の政治と、旧来の農村に財政の基盤を置き、流動する社会を統制の強化で乗り切ろうとする寛政の改革である。江戸に経済の中心を移す田沼意次の

政治は、化政文化を生むきっかけとなったが、結局田沼は失脚し、その後、松平定信による寛政の改革以降も、財政難や社会の矛盾は解消されなかった。大塩平八郎の乱が起こると、こうした社会の動揺と外国船の来航に対応するため、天保の改革が始まる。しかし、この改革も失敗し、幕府は多くの問題を抱えたまま黒船来航を契機に幕末の動乱に入り、開国、倒幕を迎えることとなる。

本中項目では、時代は違えど、近世社会の基礎をつくり、定着化させ、変容させ近代へ移行させる政策や政治改革を行った人物に注目し、その内容を為政者だけでなく複数の視点から比較し、そのメリットやデメリットを考察させることで、多面的・多角的にとらえることができるようになると思う。そして、この学習を通して、近世という社会のしくみについて説明できるようになると考える。加えて、日本がその後どのような道を歩むのか、次單元への関心を高めていきたい。

学習にあたっては、中項目の学習過程を5つに分けて学習を進める。これにより、時代を代表する為政者の政策内容を学び、当時の社会情勢や外交・文化など様々な背景と為政者だけではない複数の身分の人々の視点から「よりよい（優れた）政策を行った人物はだれか」についてまとめていく。時代や立場も異なるが、基準を1つつくって行くとまとまらないため、史資料をもとに個人的に根拠を明らかにして結論付けるやりかたを採っていく。最後に中項目を通した問いについて、学習してきた内容や自身の考え方、振り返りを基に意思決定し、自分の言葉で説明できるようにさせたい。

また、事前に「近世という社会」のイメージを生徒にアンケートを取り、テキストマイニングにかけると以下のような形になった。信長、秀吉、家康という主要な人物が出てきているが、江戸中後期の人物などは現れてこない。近世社会の基礎の1つとも言える「身分」が出ており、ある程度学習を進めると出てくる内容も散見することから、予習を進めている生徒



もいるようである。正しい知識と社会構造の理解が進むように努めていきたい。また、中世からの変化、近代へどのようにつながるのか、時代のつながりという点においても考えながら授業を進めたい。

### (3) 指導観

#### ①「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした単元構成

本単元では、「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした単元構成を行う。これまでの研究成果を生かし、特に目標設定と方略計画、方略調整の学習過程に重点を置く（次項 表1）。また、各単元を小単元とし、「内容のまとめり」となる学習における大きな単元である中項目を構成し、小単元の学習ごとに評価の場面を設定しつつ、中項目を通した長期的な学習の視点に立って評価を行う。小単元ごとの振り返りが、方略調整につながり、全体の振り返りにつながると考えている。今回の授業は、最後の「全体の振り返り」を意識して構成し、目標を設定し、小単元ごとに調整をした結果、中項目全体の問いに対して、最終的にどのような結論付けを行うのかをつくり上げていきたい。

表1 「主体的な学び」のプロセスモデルと単元の学習活動

「主体的な学び」のプロセスモデル	単元の学習活動
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中項目を貫く問いの設定</li> <li>・各小単元を貫く問いの設定</li> </ul>
方略計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の学習の見通しを立てる =ゴールの設定</li> </ul>
遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～5時間（小単元）の学習</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小単元を貫く問いに対する考えをまとめ、共有する</li> <li>・ゴールの達成状況の確認</li> </ul>
方略調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小単元の学習から今後の見通しを立てる</li> </ul>
遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中項目を貫く問いに対する考えを吟味したり、練り直したりする</li> </ul>
全体の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中項目を貫く問いに対する考えをまとめる</li> <li>・ゴールの達成状況の確認、ゴールの評価</li> <li>・中項目の学習の振り返り</li> </ul>

なお、生徒が自ら活用する学習方略については、ここまでの授業の中で、「例」を考え実行していった（表2）。ただしこれらは、あくまで「例」であり、生徒とともに学びを深める上で、さらに広がったり深まったりするものである。

表2 「主体的な学び」のプロセスにおける社会科の「学習方略」の例

学習を広げるための学習方略	学習を深めるための学習方略
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や自分の学習を参照する。</li> <li>・教科書や資料集など、信頼性の高い資料を読む。</li> <li>・課題に関連のありそうな書籍を読む。</li> <li>・課題に関連のありそうなインターネットサイトを読む。</li> <li>・他者の学習の様子、内容を参照する。</li> <li>・自分の考えを他者に伝える。</li> <li>・他者の考えを聞いたり、取り入れたりする。</li> <li>・他者と意見を交わし、自分の意見を練り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の視点に注目して考える。</li> <li>・複数の側面について説明する。</li> <li>・複数の立場に立って考える。</li> <li>・学習課題に関連する資料から情報を読み取ったり、その情報を比べたりする。</li> <li>・自らの主張を根拠づけるデータを探す。</li> <li>・時間軸で並べる。</li> <li>・現在の社会とのつながりを考える。</li> <li>・人々の価値観に着目する。</li> </ul>

授業を通して、どのような「学習方略」が身についたと考えるか、約3か月後、11月にアンケートを取った。そこで挙げられたものは以下のとおりである（表3）。

表3 「学習方略」として身についたと生徒が回答したもの

<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者参照を自分から動いて行うこと（わからなくなったり行き詰ったりしたときは特に）。</li> <li>・教科書と資料集、インターネットサイトの情報を比べてみて参考にすること。</li> <li>・複数の視点で調べた時に、共通点を探していくこと。</li> <li>・複数の資料を一緒に見て比べたり、組み合わせで根拠となるものを形作ること。</li> <li>・政策を調べる中で、為政者以外の立場の見方を考えること。またそれぞれの利益を考えること。</li> <li>・自分とは違う考えの仲間から聞いたり、自分が考えた立場と異なる立場の考えの仲間から聞くこと。</li> <li>・人物を中心に学習しているので、人物と政策を一緒に比べていくこと。</li> </ul>
---

授業の中で多くの生徒が自分の言葉で「学習方略」を説明し、つくり上げ使っていることがわかる。しかし、視点や立場を複数考えるあまり、1つ1つの内容が薄くなってしまったり、考えを出すだけで終わってしまったりしている。また、単に調べ学習で終わってしまい、自分の考えを入れてまとめをつくることができないという課題も出てきている。方略を使いこなすだけでなく、その後に自分の言葉でまとめる、結論をつくることも合わせて取り組んでいきたい。

## ②自らの考えを表現する場面の重視

本単元の学習においては、複線型の授業構成にすることで、生徒が自らの考えを表現する場面を確実に設定したい。資料から読み取ったことを基に、自分の考えを説明したり、互いの考えを出し合ったりするうえで深めていくことを苦手とする生徒が多いため、自分なりの考えをまとめることを目指して、必要な情報や学習方法、学習形態を選択させながら学習を進めていきたい。また、小單元ごとの振り返りを通して、中項目全体の問いに自ら迫れる時間もかけていきたい。

こちら事前のアンケートで、「授業のスタイル」と「学習の進め方」について生徒の考えを集計した。まずは、「授業のスタイル」だが、複線型の授業構成については、80%超の生徒が「やりやすい」と回答しており、その理由の多くが、「より多くの仲間の考えを共有できること」にあるとしている。また、「自分とは異なる考えや意見がたくさん出てくるので、互いに説明し合ったり、議論し合ったりする機会が生まれる」「自分の意見をまとめる際に、資料集や教科書を使って理解を深め、自分の根拠を明確に示すことができる。すると、友達と意見交換をする際も相手が納得しやすい文になるように工夫でき、メリットだと思う。」と回答した生徒もいる。自分なりの考えをまとめて表現する課題を解決する一つの手段になっていると感じる。

次に、「学習の進め方」については、歴史学習を苦手とする生徒も学年に多く、小学校の学習のように人物を中心に学習を進めていきたいと回答する生徒がほとんどであった。その結果をもとに、小單元ごとに「どの人物がよりよい政策を行ったか」という視点を設けて、人物に焦点を当てて授業を構成した。「人物の名前と何をしたかだけを黒板に描かれても忘れてしまうが、自らが調べて交流を行うことで印象に残りやすいのでいいと思う。」や「大抵は歴史人物が歴史的事象に関わっていると考えるので、人物中心だとそれらを細かく知ることができると思う。」「人物に寄り添った視点を見ることができて楽しいし、実感が湧く。」という回答が複数あり、歴史学習が苦手な生徒については、学習意欲という面では効果があると感じている。

### 3 単元の見込み

- ・近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・近世の日本に関わる諸事情について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。</p> <p>・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。</p> <p>・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。</p> <p>・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、資料から様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。</p> <p>・欧米諸国のアジア進出による中国の動き、日本の開国と貿易の開始による政治的、経済的、社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p>	<p>・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</p> <p>・欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>・学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>

5 指導と評価の計画 (全32時間)

項目	学習活動	評価の観点			評価基準等
		知	思	態	
中項目の導入 (1時間)	<p>中項目全体を貫く問い 「近世社会の中で最も優れた政策を行った人物は誰なのか？」</p> <p>・教科書や資料集、小学校の学習など既習事項をふまえて、中項目全体を貫く問いについて考察し、ワークシートに記入する。 ・問いの解決に向けたゴールを決める。</p>			●	●問いを解決するために必要なゴールを見方・考え方を働かせて適切に設定している。
小単元1 (6時間)	<p>小単元を貫く問い 「安土桃山時代の文化は、それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか、またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」</p> <p>①②課題Ⅰ「ヨーロッパ人はなぜ世界へ進出したのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートにまとめる。</p> <p>③④課題Ⅱ「織豊政権下の政策は社会をどのように変えようとしたのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートにまとめる。</p> <p>⑤課題Ⅲ「戦国大名や豪商たちの経済力と新たな時代の気風は、世界との貿易の影響とともに、日本にどのような変化をもたらしたか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>⑥①～⑤でワークシートに記入した事柄を踏まえて、小単元を貫く問いについて考察し、ワークシートに記入する。中項目全体を貫く問いとの関りを確認する。</p>	●  ●  ●  ○	●  ●  ●  ○	●  ●  ●  ●	<p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に取り取っている。</p> <p>●課題Ⅰについて、ヨーロッパでの変革と交易の広がりとその影響などに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に取り取っている。</p> <p>●課題Ⅱについて、中世社会との比較に着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に取り取っている。</p> <p>●課題Ⅲについて、当時の政治や文化の動向に着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>○「近世社会の基礎がつけられたこと」について自分の言葉で説明している。</p> <p>○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、小単元を貫く問いについて考察し、結果を表現している。</p> <p>●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p>

<p>小 単 元 2  (6 時 間)</p>	<p>小単元を貫く問い 「なぜ江戸幕府は長い間政治の権力を保てたのだろうか」</p>	<p>①②課題Ⅰ「江戸幕府はどのように大名を統制したのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。</p> <p>③課題Ⅱ「江戸時代の社会の仕組みの中で、農村や各地の特産品はどのような役割を担っていたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>④⑤課題Ⅲ「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係がその後の日本にどのような影響を与えただろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートに記入する。</p> <p>⑥①～⑤の学習内容を踏まえて、小単元を貫く問いについて資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅰについて、中世の武家政治との違いや諸政策の目的に着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅱについて、諸政策の目的、農村の生活や幕藩体制の経済基盤との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅲについて、貿易政策が与えた影響などに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>○「幕府と藩による支配が確立したこと」を説明している。</p> <p>○統一政権の諸政策の目的などに着目して、小単元を貫く問いについて考察し、結果を表現している。</p> <p>●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p>
<p>小 単 元 3  (5 時 間)</p>	<p>小単元を貫く問い 「なぜ町人が文化の担い手となったのだろうか、その結果、都市や各地方にどのような生活文化が生まれたのだろうか」</p>	<p>①②③課題Ⅰ「産業や交通の発達には、この頃どのような特徴がみられたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>④課題Ⅱ「江戸時代に、学問や芸術、教育への関心が高まり、広がっていったのはなぜだろうか」について、資料を活用して話し合った結果をワークシートに記入する。</p> <p>⑤①～④の学習内容を踏まえて、小単元を貫く問いについて、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅰについて、産業の発達などに着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅱについて、文化の担い手の変化などに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>○「町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと」を説明している。</p> <p>○産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化などに着目して、小単元を貫く問いについて考察し、結果を表現している。</p> <p>●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p>

<p>小単元4 (6時間)</p>	<p>小単元を貫く問い 「なぜ幕府の政治は、様々な取組をしたにもかかわらず、行き詰まりをみせたのだろうか」</p>	<p>①②課題Ⅰ「なぜ江戸幕府の財政は悪化していったのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートにまとめる。</p> <p>③④課題Ⅱ「田沼意次と松平定信、江戸幕府の財政立て直しにより貢献したのはどちらだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートにまとめる。</p> <p>⑤課題Ⅲ「学問・思想は、新しい時代を切り開く動きにどのような影響をもたらしたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>⑥①～⑤の学習内容を踏まえて、小単元を貫く問いについて、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅰについて、貨幣経済の広がりや幕府の諸政策などに着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅱについて、社会の変化と幕府の政策との関わりなどに着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅲについて、新しい学問・思想の影響に着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>○「幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたこと」を説明している。</p> <p>○社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、小単元の学習課題について考察し、その結果を表現している。</p> <p>●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p>
<p>小単元5 (7時間)</p>	<p>小単元を貫く問い 「江戸幕府はどのようにして倒れていったのだろうか」</p>	<p>①②課題Ⅰ「社会の変動や欧米諸国の接近が幕府の政策にどのような影響を与えたのだろうか」について、考察した内容をワークシートに記入する。</p> <p>③④課題Ⅱ「ペリーらの来航により、日本ではどのような変化が起こったのか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>⑤⑥課題Ⅲ「武士による政治は、どのように終わりを迎えたのか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>⑦①～⑥の学習内容を踏まえて、小単元を貫く問いについて、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅰについて、世界情勢の変化や国内の動向などに着目して、資料を活用して考察し、表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅱについて、開国とその影響について考察し表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>●課題Ⅲについて、江戸幕府が倒れた原因について、考察し表現している。</p> <p>○「江戸幕府が倒れた原因」を説明している。</p> <p>○小単元を貫く問いについて考察し、その結果を表現している。</p> <p>●自己の学習を振り返り調整している。</p>

中項目のまとめ (1時間・本時)	中項目全体を貫く問い 「近世社会の中で最も優れた政策を行った人物は誰なのか？」			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中項目全体を貫く問いを確認し、小単元の学習を振り返り自分の考えをまとめる。</li> <li>・当初の自己の学習の見通しと比較し、新たに加わった点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートにまとめる。</li> </ul>		○	○

## 6 本時について

(1) 日 時 令和6年11月30日(土)

(2) 会 場 山梨大学教育学部附属中学校 赤レンガ館

(3) 題 材 近世社会の中で最も優れた政策を行った人物は誰なのか？

(4) 本時の目標

- 学習課題について、政策と社会の変化、身分などの関わりなどに着目して、様々な視点から考察し、結果を表現している。

(5) 本時の流れ

項目	【学習内容】 ○学習活動	・指導上の留意点 □評価基準等
導 入 (10分)	○本時の課題を確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「近世社会の中で最も優れた政策を行った人物は誰なのか？」</div> ○前時の授業を振り返り、自分自身で予想を立てる。	・個→ペア
展 開 (35分)	○学習課題について、政策の内容、受けた身分の人々の立場、当時の社会情勢などを、既習事項や振り返りシート、学習に使用したワークシートで確認しながら予想を立てる。 ○課題に対して理由を考え、自分の考えを更新したり、深めたりする。その際、それぞれの政策、改革のメリット・デメリットを挙げて、複数の視点や様々な立場から考える。  ○何人かの生徒が自身の考えを発表する。	・個→ペア  ・全体 □ワークシート(ロイロノート)交流などを通して、自らの考えを深めている。 ・何らかの形で「交流」は行うよう指導する。 ・机間巡視をし、学習に向き合えない生徒を補助する。 ・スクリーンで映す
ま と め (10分)	○本時の学習内容について、教師の話聞き、必要に応じてメモする。 ○本時の学びについて振り返る。	・振り返りシートに記入(ロイロノート)

## (6) 板書計画

- ・本時の学習の流れを掲示する。

## (7) 本時の評価

A (「十分満足できる」状況と判断されるもの) の例	B (「おおむね満足できる」状況と判断されるもの) の姿	C (「努力を要する」状況と判断されるもの) への手立て
既習事項を振り返り、当時の社会情勢とその変化を踏まえたうえで、複数の視点から多面的・多角的に考察し、自らの言葉で考えをまとめている。	既習事項を振り返り、当時の社会情勢とその変化を踏まえたうえで、1つの立場から多面的・多角的に考察し、自らの言葉で考えをまとめている。	資料から政策のメリットデメリットを考え、他者の考えを参考にし、自分の考えを持てるよう支援する。

## 7 参考文献

- ・『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』 国立教育政策研究所
- ・「三 兵農分離制の成立」『大系・日本国家史3 近世』佐々木潤之介他編 1975 東京大学出版会
- ・『日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ』上野大輔他編 2024 勉誠社
- ・『商人と宣教師 南蛮貿易の世界』岡美穂子 2011 東京大学出版会
- ・『百姓の力—江戸時代から見える日本』渡辺尚志 2008 柏書房
- ・『徳川幕府の経済政策—その光と影』岡田晃 2023 PHP 新書
- ・『近世後期の海防と社会変容』清水詩織 2024 勉誠社
- ・『幕末・維新 シリーズ日本近現代史①』井上勝生 2006 岩波新書